

## 血管性認知症進行をくいとめる

### 脳の血管のつまりや出血が引き起こす認知症

脳の血管の詰まりや出血が  
引き起こす認知症

アルツハイマー型認知症に次いで多いのが血管性認知症です。脳の血管が詰まる脳梗塞や、脳血管が破れて出血する脳出血により認知症が発症します。つまり、これらの病気に適切に対処することで進行をくいとめられるのが、この認知症の特徴です。



脳卒中後に起こる認知症

脳梗塞や脳出血などの脳卒中によって脳の神経細胞の一部が死滅するため、脳がダメージを受けます。脳卒中の後遺症としての認知症は脳卒中を発症後およそ3カ月以内に発症します。1回目の脳卒中では認知症状が出なくても、脳卒中が繰り返し起こることで認知機能が段階的に低下していくケースがあります。



## 隠れ脳卒中による認知症

大きな血管で脳梗塞や脳出血が起こっても、起こった場所によっては、明らかな脳卒中の症状が現れないことがあります。（**隠れ脳卒中**）脳の細い血管が詰まる「ラクナ梗塞」や出血の範囲が小さい「小さい脳出血」も、隠れ脳卒中です。脳卒中の症状が現れにくいことが多いです。脳はダメージを受けているため、認知症の原因となります。

## 血管性認知症の症状 1

## 血管性認知症の症状チェック

以前はスムーズに出来ていたことが、段取り良くできなくなった。

歩く、食べるなどの動作が、全般的にゆっくりになった。

活気がなくなった・言葉数が少なくなった。

同じ話を何度も繰り返すようになった。

少し前のことが思い出せない。

少しろれつが回らない気がする。

少しよたよたと歩く気がする。

ささいなことで泣いたり笑ったりするようになった。

当てはまる項目が多いほど、血管性認知症の可能性が高くなる。特に脳卒中の発症から1年以内の人や、隠れ脳卒中がある可能性のある人、70歳以上の人は、当てはまる項目がないか、家族などと一緒にチェックしてみよう。



## 認知症が疑われる場合は

- ・脳卒中をおこしたことがある人  
→脳神経内科や脳神経外科などのかかりつけ医に相談
- ・脳卒中をおこしたことがない人  
→ ・もの忘れ外来、脳神経内科、精神科など
  - ・認知症疾患医療センター
  - ・全国の認知症サポート医のいる医療機関
  - ・そのほか日本老年精神医学会や日本認知症学会認定の専門医がいる医療機関

などを受診

左に示したように医療機関を受診することが勧められる。該当する最寄りの医療機関が分からない場合には、下記にも専門医のいる医療機関の情報などがある。

地域包括支援センター（各市区町村）  
「認知症の人と家族の会」（各都道府県）

### 血管性認知症の症状 2

段取りが悪くなり、以前はスムーズにできていたことも時間がかかるようになる



脳の司令塔である前頭葉の働きが悪くなるため、起こります。前頭葉に脳梗塞が起こったり、脳血管の障害により脳の白質という神経伝達経路が壊れて前頭葉からの情報が遮断されるために、要領よく行動することが困難になります。

活気がなくなった・言葉数が少なくなった



前頭葉の働きが悪くなると生じる

動作がゆっくりになった



情報伝達経路が遮断されることが原因とされている

同じ話を繰り返したり、少し前のことを思い出せなかったりする



記憶障害がおこっているため現れている症状

少しろれつが回らない気がしたり、よたよたと歩く



脳卒中の症状です

ささいなことで泣いたり笑ったりする



脳の前頭葉が障害され、感情の抑制が効かなくなる

## 血管性認知症への対処法

血管性認知症は適切に対処することで進行をくいとめられることができます。後記で示す5つの対処法を実行していくことがすすめられます。

脳卒中の再発は、およそ2割の人でそののち10年間におこります。脳の状態を一気に悪化させ、認知症の発症や急激な悪化の原因となるため、再発予防はかせません。すでに起こってしまった認知症を治すことはできませんが、適切に対処することで進行を抑え、それ以上悪くならないようにする可能性は大きいです。血管認知症では、このことがとても大切なのです。

1

脳卒中の発症には、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心不全、心房細動（不整脈の一種）、慢性腎臓病などの病気に加えて、喫煙、過度の飲酒、脱水なども危険因子として関わっている。こうした危険因子はしっかり治療・管理することが大切。危険因子の管理は、隠れ脳卒中の予防にも有効。



2

### 抗血栓療法

脳梗塞をおこしたことがある人は、抗血小板薬や抗凝固薬で血栓（血液の塊ができるのを防いで、脳梗塞の再発を予防する。



3

### 認知症の薬物療法

脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症には、ドネペジエル、ガランタミン、リバスチグミン、メマンチンが使われる。意欲低下、うつ症状、不安感、不眠、興奮などの症状にはそれぞれに対する治療薬を使用する。

4

### 家族の接し方と社会参加

本人は、できなくなったことをしっかり認識していることが多い。作業・仕事・家事などについて「～ができなくなった」というように扱われると、気分が非常に落ち込みやすい。今までどおりできることをほめて、社会参加を後押しするような接し方が勧められる過度な期待をせずに、余裕をもって見守ろう。



5

### 運動習慣

日常的にウォーキングなどを行うとよい。血管性認知症やアルツハイマー型認知症も予防する効果がある。

